

6 倉敷市の農業施策についてご意見があればお聞かせください。

1 農業従事者・後継者支援
減反政策を見直すべきである。高齢化による従事者の確保対策。（農家の保護、支援）
農業の後継者が安定して生活できる体制の構築は自治体でなければできないと感じます。市民・若者を取り込むための魅力の発信も重要ですが、まずは安定感がなければ今の時代の若手は農業には寄り付かないのではないのでしょうか。 倉敷には様々な豊かな農産物があり、日ごろから活用することを心がけていますが、個々の市民の消費ではとても追いつかないと思います。どのような形でもよいので市政の介入による活性化をぜひ期待します。
農業が継続できる体制を確保する。（若い人材、経済的自立など）
高齢化が進むなか、介護に限らず、農業も外国の人に手伝ってもらったらどうだろうか？ 米を主食とする東南アジアの人であれば、お互いに美味しい米づくりができるであろうし、米粉を使った食材研究もっと進むのではないかな？と思われる。
倉敷市として、ということでは難しいかもしれませんが、農家の収入について、人並みに維持できるだけの収入を得られるようにしてあげる、指導することが必要ではないのでしょうか。特にこれからの農業の担い手が本当に育っているのか、甚だ疑問に思っています。米作については或る程度システムチックに行うことが出来るため、規模の大規模化を進め、本当の意味での生産性を高めてほしいと思います。その上で、野菜や果物等の工夫すれば高付加価値で売れる商品について、意欲的に取り組む農業者を支援してあげてほしいと思います。安全、安心な地産地消できる農産物の生産が、ずっと継続できるようにするために、知恵を絞っていききたいものです。大雑把、危険と思われる中国の輸出農産物ですが、自家消費及び地産地消する分にはかの国でも安全性第一で商品を作っていました。消費相手が見える商品づくり、生産相手が見える地産地消では不義理なことは出来ないようです。
高齢者農業が中心で、限界集落よろしく限界農村になっている。若い人が農業できる環境（農地、機械など）を整えてほしい。3ちゃん農業から2ちゃん農業は過ぎ、ばあちゃん（じいちゃん）農業が現状です。働き手を2次産業や3次産業に奪われています。この施策を進めたのが、政治家であり代表が自民党ではなかったのか？政党政治家は、せめて1週間農家に泊りがけで農作業に従事してもらいたい。ここに来ての大臣経験者の発言を新聞で読むにつけ、農家の苦勞を体感していない政治家が農水大臣になっているように思われます。
倉敷市で農業施策をしていることを知らなかった。 倉敷市に限らず日本の農業は衰退の一途である。 田んぼで米を作らない農家が多い。田んぼが草ぼうぼうのところが多い。 私の山口県の実家は百姓であり、現在も百姓をしている。 しかし、実家の近所の友達が言っていたが、今は百姓をする人間がいない。 だから、自分が沢山の田んぼを耕し、稲を植えている。 できた米は、地主と半々にしている。その友達も百姓を止めている。 先日、山口に帰った時に近所を散歩したが、田んぼの約7割は米を作っていない。 なぜなら、草ぼうぼうである。 百姓は苦勞のわりに収入が少ないのだと思う。 ここを何とかしないと日本のコメ農家は減る一方である。
農業後継者の生活が成り立つような施策を進めてほしい。
農業だけでは生活不可能なので農業をしている人たちの支援が必要です
稲作をする人が高齢、あるいは後継者がいなくて、田んぼがどんどん宅地化している。 田んぼの経営を個人に任せず、企業、団体に集約した方が規模も大きくなっていいと思う。 しかし任せる方が企業にお金を払い、固定資産税も払いという現状では、ますます売却につながってしまうと思う。 農業を始めたいという人と、誰かに任せたいという所有者を結びつけて欲しい
農家をしやすく増やす事を考えて下さい 地産地消が国産国消になり、倉敷産が絶えそうです
田畑を所有していますが、後継者がいなくて悩んでいます。田は他人に田植えをしてもらっています。道べりにあるので、不動産関係の人が来て、アパートを建てたらと言われます。心が動きます。 老夫婦で畑で野菜作りをしています、限界です。
農産物の地産地消、米粉の利用促進等はそれはそれで重要な施策だと思っています。しかし、近い将来的に最も重要な課題は農業従事者の減少と高齢化（農地減少）ではないのでしょうか。この課題について倉敷市としてどのような施策もって対応しているのでしょうか。
高齢化による担い手不足が心配。法人化による休農地を活用した農業がもっと増やせばいいのでは？

農地がだんだんなくなっていっているように感じています。農業には経済的、体力的な負担がかかると聞いたことがあるので、農業を続けている人が今後も続けやすいように、市でも助けになるようなことをしてあげてほしいなと思っています。

農業従事者の方々の高齢化と後継者不足を言われてから久しい。母方の実家でも農家だけでは生活が立ちいかず祖父の代で離農したがご近所でも同様の現状を見聞きしている。自給率100%とあるが政府の打策による結果が今に繋がっているように思う。介護であれ農業であれ医療であれ携わっている方々の志に寄りかかる事をよしとせず生活が立ちいくような体制を積極的に推進する事が肝要だと思う。

農業にサラリーマンの勤め先のような安定した身分や厚生年金のような社会保険制度を用意してほしい

農業後継者の確保が課題だと思います。農業従事者的高齢化とともに、農地を手放したがる人も多いと思います。
逆に、少し農業をやってみたいが、土地を手に入れるのが難しいという人もいます。
そういう生産にかかるマッチングや、消費についても、本当に地産のものを食べたいが手に入りにくい場合もあるので、需要と供給のマッチングそう言ったことから始めても良いのかもしれない。
アプリを作ったり？

倉敷市外に在住の私の父は体調を崩し、昨年度から米作りをやめました。手間と時間がかかるため、私が引き継ごうにも引き継げませんでした。
私が今住んでいる場所は、周りに田んぼが多いですが、後継者不足で何年後かには荒れ地になるのではと心配しています。代々農業をしている方だけでなく、農業に興味のある人や時間のある人、引きこもりがちな方等に援助して、農業に関わってもらいたいと思います。

今後、米不足とならないように、後継者問題などに取り組んでいかなければならないと思います。

農地をできるだけまとめて効率の良い農業経営ができるとよいのでは。高齢化の問題もあり、外国人の雇入れも必要な時代になってくると思う。

専業・兼業農家に利益が出て、後継ぎの方が困らないような支援をDXなどを活用して実施してほしい。

後継者がいないことにより耕作放棄地が増え宅地化が進んでいるのは、農業に魅力がないからである。つまり仕事の大変さに比べて収入が少ないことによるものであろう。ただし、ある程度の規模がないと高い収入を得ることは難しいので、税金を投入してでも農地を集約して大規模なものにすること。さらに農業従事者を公務員扱いにしてはどうか。

外国に頼りすぎるのは不安があるので、国内自給率を少しでも高める必要があると思います。後継者がいないためか近年は田から宅地への造成が増えていることも気になっています。農業は新規で始めるには土地・機械などハードルが高いため、初心者取り組みやすいレンタル事業のようなものがあれば参加したいと手をあげる人もいないのではないかと思います。

農家の人の負担が増えるのではなく、農家をする人が今後増えていくような政策を実施して欲しい。

市よりも県や国が積極的に農業従事者を保護するべきと考える。
農業従事者控除を設ける、出荷量に応じて補助金を増やすなど農業だけで生活ができるような施策を出すなど。
定年退職者に農業ボランティアをしてもらうなど、短期ではなく農繁期に頼れる人手を確保することも考えて欲しい。

農業を行っている人に対して、安心して生産できるようなさまざまな面での支援が必要だと思います。

高齢で田や畑をできない方とやってみたい方とのマッチングや、その後の農業指導などを積極的に行っていくべき。

農業後継者を増やしていかないといけないと思う。田植え、稲刈り時期に手伝いする人など。

農地はあっても後継者がいないのか荒れている場所もある
借りてでも作りたい方と借りてほしい方のマッチングが出来ればいいのになと思う

仕事をしない若年層がもっと農業に携わればよいと思うが資金面、技術面のサポートが不足していると思う

家庭菜園に興味はありますが、土のこと、肥料のこと、防虫のこと、色々考えるとめんどくさくなってしまい腰が重く始められません。
一年を通して農家さんの管理とアドバイスのもとで初心者でも気軽に始めらるような取り組みがあれば参加したいなあと思います。
その後、農作業が自分に向いてるなとわかれば自分で農地を借りてやってみるのもありだとは思っています。

簡単に就農できるような機会、体験会とかしてほしい。

天候や気温に左右され収入も安定しない事で農業をしたい方が減る一方。国をあげて、農業をしてきてる方を守ってほしい。あまり天候に影響のない倉敷の良さをアピールしたり今は使われていないかつての畑などを使うなど。A型、B型事業所の障害の方に手伝ってもらいお互いが支え合うなど色々な方法を考えていくべき。

農業をされている方の高齢化が進んでいるということで、若者にも継承していけるような取り組みや講座、気軽に体験できる場などあるといいと思います。オーガニック、自然栽培の農園も広がって欲しいです。

農業減反政策の為に農地も少なくなり、農産物も作られなくなり道の駅で販売されている農産物だけで農業従事者の高齢者で跡を継ぐ人がいない時代に若い人が農業意欲がわくような政策が必要だと思います。果物、稲作など転職希望者に支援することが大事ではないでしょうか。

農家さんは高齢化が進んでいると感じる
また、小規模農家さんが多いと思う
市だけではなく国として、継続出来る金銭面や働き手の支援が必要と思う

専業農家への技術的支援、優遇融資。大規模化へのバックアップ（仲介役）。

農業従事者が高齢化してきて放置された田畑が増加しています。田畑を貸すための条件は貸す側にとっていいとは言えません。草刈りをしなくていいだけのメリットしかないように思います。晴れの国岡山の農協も地域差があると思われますが頼りになりません。若い人が農業を続けていくためには、休日や労働に見合う賃金が必要だと思います。労働の軽作業化も必要です。このような農業を始めようとする資金も要ります。会社組織の農業をしたいと考える企業を探して出資して頂き成功例をつくる。そのノウハウを利用して新しい農業を進めて行く。市から資金の応援やグラウンドファンディングを利用するなど資金面を考える。

倉敷は家族や親族に農業従事者が多く、農業をやってみたいと思う若者は一定数いると感じています。実際、自分自身もそのように思います。しかし、仕事を投げ出してまで農業に取り組む自信は持てません。そこで、休日や夕方にも参加できる家庭菜園や剪定、土づくりなどの講習会を増やすことで初心者でも参入しやすく、関心が高められると思います。また、高齢で農地を持て余している方は、買い手が見当たらず耕作放棄地になっているように感じます。本人や農業委員だけでは売り買いに限界があるのかと思い、また、面倒なしながらも感じます。日本の方で農業がしたい方にまた、土地が有効活用されるようにマッチングや情報提供の整備がなされたら良いのにと感じます。

農地の住宅地化が進んでいるように感じるが、農業の後継者（特に若い世代）を育てるような方策は取られていますか。

2 農地・生産基盤の管理・活用

米価が高いのに、草ぼうぼう水田が多い。休耕水田を利用して、米を栽培するような施策を望みます

町内でも農地が宅地へと変わっています、高齢の方が後継者問題もあり、コメつくりを辞めて土地を販売したという例もあります。
農業用水路の管理も、農業従事者の高齢化と言う問題を解決するすべは見当たらず、町内の役員でそれを補うしかないのかと言う感じです。
農業と言う事業も継承が出来ていく仕組みが必要なのではないかと思います

周辺の耕作放棄農地、宅地化が急速に進んでいる。何の規制もないのか。農家の高齢化、後継者不足に対し行政が積極的に関与し当事者の意見を汲み取り耕作困難者に対しては、耕作集約、農地企業家を勧めることを直ちに進めないと市街地も周辺部もバラバラな宅地化、放置農地が増える。企業家集約できない農地は市が買い取るか預かる様にしたい。

圃場整備した地区での50戸連たんで住宅地を増やしすぎた。
また、圃場整備の区画が再利用（拡大化）しにくい。
相続で荒れ地になっている田んぼが迷惑である。
放置し続けると最低の供託金を入れて倉敷市が嘱託登記出来るようにして、隣接農地の方へほぼ無償で譲渡する。

耕作放棄地をなくする

家の購入時に周りは全て田んぼでした。今は田んぼの影も有りません。
空き家の土地を積極利用して、新たに住宅地を作る事をまずは止めて農地を減らさない事から始めて欲しい。
又、農地を高齢の持ち主が変わって管理を行い、若手が農業を始めやすい環境を整えて行って欲しい。

休耕田をよく目にしますが、家庭菜園等での活用を推進できませんか。

休耕田を近隣の農家さんが利用できるように補助するシステムを整えてみてはどうでしょうか？農業体験も一カ所で通年で数回、継続的に同じ人に来てもらえるように出来ると良いのでは。

農地の区画の整理で作業効率を高めるのと水路の統合とガードの設置を含む不要不急の用水の整理。

農地利用面で言えば雑草が多く荒れ地になった田が多い様ですが、今後これら荒れた田の活用は進められるのでしょうか。
当然、個人の資産なので難しいでしょうが・・・。

施策がよく分からない。
稼働していない小さな土地が見受けられるがまとめて利用するように市がまとめ役をして利用できるように動いてみても良いのでは。

荒らしている農地も多いので調整区域の取扱いや農地の転用や農地の集約など柔軟な対応が必要だと思う。

農業従事者高齢化に伴い土地の有効活用に市が積極的に取り組んで欲しい。相続した場合に困るようなことがないようにしてほしい。

真備町在住ですが耕作放棄地が点々とあり、一部は森になりかけのような場所もあります。
所有者さんの高齢化など問題のようです。
既に対策をされているかもしれませんが、耕作放棄地に関してもご対応頂けると幸いです。

高齢で使わなくなっている畑や田んぼの維持で困ってる方もいる一方、家庭菜園程度の栽培をしたい方もたくさんいらっしゃるの、その辺りがうまく繋がれるようであればいいと思います。

3 米の生産・価格安定に関する施策

年取って米作りが出来なくなったら その田んぼの米作りを倉敷市の農業多角経営をしている方に貸すというのはどうですか

行政は米は自給率100%だとの事ですが、お米は国民の主食で価格の急変動や不足は有ってはならないものと昔から認識してましたが昨年知人が明日食べる米探すがどこにも無いとの事、育ち盛りの子供さんがいる沢山のご家庭も大変苦しんだと思います。国は昔のような管理が出来なくなってそれを黙って見て見ぬふりと感じました、今ようやく小泉さんが頑張ってくれてますが米価格による物価高騰を招いた後です、出来れば倉敷市で市民の為の備蓄米を管理する体制が出来たら安心です。今市民はおそらく今般の米不足や今の価格では米粉も高く手が出ないと感じてる方は多いと思います、米価格が上がれば全てが上がり昔から言われてます、行政へはまずこのお米の価格を安定化させる事を期待してます。

最近のお米の金額高騰に困っています。昔は今より高い金額だったと言われても、収入が上がらないどころか、106万円の壁の撤廃で20時間未満の就業を余儀なくされるためお金に不安がある。金額が高くなれば食べる回数を減らしたり他の物を食べる事となっている。農家の方が困らない状況にはして欲しいとは思っているが、金額が上がるのは困る。体重増加などに関して小麦を使用しない方向性だが、代わりに米粉を利用する選択肢がない状態。健康的な食生活に米粉が役立つならもっと利用したいと思う。お米の政策に無知だが、米粉の利用を含め、お米を作る農家の方が喜んだり増えるような状態になるといいと思う。

具体的にどうすれば良いとかはわかりませんがお米の高騰と品不足で困っています。
農家さんが農業を続けていけるような取り組みをお願いしたいです
お米がなければ、米粉の普及もないと思います

昨今の米問題等の報道でJAと政府等の関係が益々分かってなくなってきました。
自宅周辺の米生産者の減少、農地の縮小も気になるところです。

お米を育てるには手間暇がかかるし、労力に見合った収入が得られるわけではないと聞く。農業、特に主食であるお米を増やすにはそういう課題を解決できるような施策が必要だと思う。

米粉の利用など多角的な消費を模索する方も大切だが、米は日本人の主食で文化の源である。
米で成り立ってきた日本社会である事を自覚し、生活と文化の源である。

米も多少の値上げは仕方ないと思うが最近の異常な値上げは日本の食文化への脅威であり行政の力でなんとかしていただきたい。取り組まれていると思うが引き続き自給率向上に取り組んでいただきたい。玄米はもっと流通してもよいのではないかなと思う。

4 米粉利用促進

米粉製粉機のことは知ってますが、市役所に行った時、東側の出入口にある製粉機は閉められてたし、予約がいるとか利用しづらいと感じました。
せめて市役所・支所にあつて、好きな時間に自由に使えるようであれば利用しやすいと思います。
今はまだそんなに混雑するほど利用者はいないと思うし。

米粉を使った料理教室があれば参加してみたい。

主食コメが賄えない中で米粉拡大はあまりにも非常識ではないか。昔は、お菓子代わりに柏餅等を自家で作っていたが今はない。むしろ主食コメをしっかり食べる工夫こそが日本の文化ではないか。

小麦粉の利用でのアレルギーに、の声を聞いたことはあるが、米粉製粉での料理は知りませんでした。

米の値段が上がり 生活に困っている今日この頃です
家の周りにはどんどん田んぼ、畑が宅地に代わってきています
何とか農業だけで生活が成り立っていけないものかと思います
米粉は小麦アレルギーの代役として扱われていることが多いようです
美味しいご飯や美味しい日本酒があるように美味しい米粉があっても良いように思います
美味しい米粉があれば自然に広がって行くと思います

お米の絶対量が不足している現状で米粉の利用は少々違和感を感じます。

米粉製粉事業を知らなかった・・・PR不足では無いでしょうか・・・（私の勉強不足・・・）
米粉に限らずPR不足は否めないと思います。
農業従事者は大変な苦勞をしていると思います。
農地の有効活用を促す施策が必要だと思います。限られた予算ですが補助金（助成金）を出す制度を創設するなど農業振興を推進してほしいものです。（国、県とタイアップ）

初期に米粉にしてもらいました。
夫婦2人では単位が多く、半分友人に差し上げました。
また、米を洗い乾燥させてから米粉にするという過程でけっこう手間がかかると知りました。
米粉にするキロ数を減らして欲しいと希望します。
また、広報でもっとお知らせしてほしいと思います。

もう少しPRしたほうがよろしいかと。市がこのような取り組みをしていることを全く知らなかった。

もっと積極的に普及促進を図って下さい！

米粉パンが好きで、パン屋さんにあれば購入してます。
米粉製粉事業を倉敷市でしていることを知らなかったのも、どこでできるのか、調べてみて、近くなら利用したいと思う。
広報誌などで、米粉製粉事業を広めて伝えてもらいたい。

今、お米が高いため製粉機を利用する予定はないが、安くなるのであれば使ってみたい気持ちはあります。小麦を食べると調子が悪くなるので、もっと米粉のお店が増えて当たり前に選択できるようになる世の中になってほしい。

農業施策は分かりませんが、米粉の機械は是非利用したいと思っています。その時はよろしくお願いします。

米粉製粉事業について詳しく知りたい。

米粉製粉をお願いしたいが、受け渡しがいずれも平日で利用しづらい。また、1回辺りの量が多く、製粉を躊躇う。

米は1年分を購入し、自宅の米冷蔵庫に保存している。古米を米粉にして様々な料理にしたいと思うが、製粉機の設置箇所が少なすぎて、活用できない。粉物は保管が大変。冷蔵庫に入るだけで良い。小型をJ Aなどに設置してくれたら良いのだが。

米粉は美味しいので大好きですし、今後も積極的に利用して行きたいです。
様々な飲食店や店舗で扱っていただきたいと存じます。
自宅のお米を持参して、製粉してくださるところが近くにあれば、週一くらいで製粉して料理を作りたいです。
製粉所の場所を紹介して、そこに米粉のレシピを設置していただきましたら最高です。
よろしくお願いいたします。

米粉のパンやクレープ、パンケーキを食べたことがあり、米粉は基本的に好きなのですが、店舗によっては味がおいしくない時がある。手間がかかるということもあるのか、値段も比較的高い。値段が安いと米粉を買う人が増えるのではないかと思います。またパンの場合、米粉と小麦粉どちらのほうがどんな栄養素が多いのかわかりやすくしてもらえると子育て世帯は米粉の食品を買う頻度が増えるのではないかと思います。

米粉に関しては料理が苦手自分で調理して食べようとは思ってないので売ってる物の購入になります。パン屋さん、イベントなどで試食ができればいいと思う。

倉敷市の米粉製粉事業の話岡山市の方にしたら、とても羨ましがられました。

米粉はパンにすると美味しいので普及してほしいです。

米粉の製粉事業が気になるので1度利用してみたいと思った。グルテンフリーなど気になるし、やってみたいけどなかなか難しい、忙しい朝はパンが多くなる！ヤマサキパンなど大手からも何種類か出して近隣スーパーで売って欲しい！

米粉製粉機を利用したいと思っているが、どこでどう手続きすればよいのかが分からない

	道の駅、J A、スーパーマーケットでも地元の農家の人達が出品している野菜のコーナーがあるので、積極的に利用しています。 地元の野菜を手軽に扱っている店舗が増えているのは、消費者として嬉しく思っています。 農地を管理していくことは、幅広く水源、水路、環境、文化の伝承に貢献していくことだとは考えていませんでした。 これからも自然環境に配慮しながら、日本の農業を守っていくべきだと改めて思いました。 地産地消とはいっても結局は最近の物価高で安いものを買う。J Aの直売所は最近値段が高くスーパーのほうが安い。岡山県は米も高く地産地消なんか進まないだろう。 道の駅や農協等の直売所やスーパーの地産コーナーは安くて新鮮な物が多く積極的に購入している。もっとそういった物を手に入る機会が増えると思う。 地産の販売をさらに進めてください 地産地消は大切なことなので農業は大切にしていきたい。 地産地消の取り組みを増やして欲しいです!農家に利益が還元出来る仕組みになると良いと思います!美味しい地元産の食材をスーパー等で購入したいです! 一人一人が地産地消を意識して買い物をする、学校給食でも取り入れられているのでそのレシピを広く知ってもらうようなイベントを開くと楽しいと思います どこでどんな作物が作られているのか、もっとアピールしてほしい。
6	流通・販売の促進、P R 事業 一番身近で関係がある食、コメにしても野菜にしても、スーパーではなく、生産者の方の品物が買える場所、私が知らないだけかも知れませんが、大高にある農協の横の店、総社にある店、くらいしか知りません、テレビ等で見ると作り手の人が、朝持ち込む姿をよく見かけますが、倉敷では少ないのだと思っています、スーパーで農家の方が出しているコーナーを見つけると、買うようにしていますが、品数が少ないです、値段は高いとは思いませんので、ある時は買うようにしています、野菜の値段も高いので、形が少しくらい悪くても地元の品だと思えば、買います、野菜の自販機があっても良いのではと、テレビで見ましたが、便利だと思いました、買い物をするのに必要なのは、一番に値段、次に新鮮さだと思います、形が少々悪くても、新鮮で安ければ売れると思います、自分で見て納得して買うので、良いのではと思います。 倉敷インター近くに、道の駅を作り、地の物を使った食堂、季節のフルーツを使ったジェラートやお土産などを販売するのはどうでしょうか? 徳島の「道の駅くるくるなと」のようなイメージです。 話題性、店舗の大きさ、取扱商品、アクセス、駐車場の広さが要だと思います。 それには、J Rの南北の交通インフラ整備が絶対に必要です。 宣伝は必要ですが、フォロワー数の多いインフルエンサーを優遇するようなヒイキは絶対にしないでほしい。宣伝してくれるかたには、平等に。 倉敷には、海に山、文化歴史の宝庫ですから、ここを拠点にもっとアピールしてみても、どうでしょうか? 私は車で旅行に行くと道端の駅や大きな産直のお店に寄って、その土地ならではの果物や野菜、珍しい加工品など買って帰るのが常です。お店の方にその土地のおすすめ製品や文化をお尋ねするのも楽しいです。最近では愛媛のさいさいきて屋と高知のとさのさが品揃えがよく爆買いしました。持ち帰った食材を分けたりして周りのお土産話も弾み、購入者以上の伝播で宣伝効果があると思います。美観地区に近い場所に地元民も観光客も訪れるようなラインナップの超大型産直が欲しいです。岡山の美味しいものを国内外にどんどん広めて参りましょう。 道の駅のような販売所が少ないのと、朝早めに行かないと商品が売り切れて購入できないことが多い 直売所が大好きです。基本的に野菜や果物などは直売所で購入するようにしています。でも朝早く行かないと商品が売り切れています。農家さんがもっと増えたらいいなあと思います。 直売所に行くも商品が少なく、なかなか買えていない。 農産物の地産地消＝J Aのイメージが強い。現状、岡山県の農産物の多くが倉敷市で収穫されているものにも関わらず、J A岡山とJ A晴れの国岡山が分裂し、他県から分りにくい状態になっている。県・市とJ Aが協力し、一体となったP Rをしなければ、効果的でない。 フルーツの多様販販売増大を期待したいです。 地元産のフルーツを桃とぶどうだけでなく、キウイや梨など手軽に食べたり、食べやすい品種の生産、販売をどんどんやって欲しいです。 現状、市内の直売所は規模が小さい。少なくとも、総社市のJ A山手直売所、岡山市のサウスファーマーズ直売所レベルの規模の直売者でないと利用拡大しないだろう。行政が主導し、土地や運営に係るべきだ。さらに、出品農産物の健康安全面についても定期的に抜き打ち農薬検査をされたい。農家によっては、自家用と出品用を区別生産し、後者には農薬散布していることは事実だ。少なくとも生食野菜、果物は抜き打ち検査し公表をされたい。

	新鮮な野菜や果物が並ぶ直売所が好きでよく利用しているが、品切れが多く欲しいものが手に入らないのが残念です。 家庭菜園で育てた野菜などがフリーマーケット形式で並んでもいいような気がします。高齢者の生きがいにもなりそうです。 予約注文ができればいいのかなとも思います。
7	農業の安全性、環境、鳥獣害対策 畑で野菜などを作っているが、イノシシなどの被害のために作るのを止める方々が一定数いる。保護区域の見直しなど駆除対策を強化してほしい。 米の水耕栽培に使う水の安全性や品質が心配。生活排水が農業用水に混ざっていないか？ 害獣の被害で、家庭用の野菜が栽培できない。耕作放棄地が増えて、さらに害獣の住処が増えてくる。個人で農業機械を購入するにも高い。高齢化で耕作できない。
8	農業体験・教育・啓発 農業専門学校を設立して新たな産業の柱として頂きたい。 農業は食べ物を作る仕事なので、人間生活の全てを支えています。生産基盤が崩れると飢えてしまいます。 普段、土に触れることもなく、お金と食べ物を交換するだけの人も多い現代では、生産者の立場が想像しにくいと思います。 子どもの頃からの教育に農業体験を取り入れたり、大人でも体験の機会を作るとよいと思います。 また、消費者は「ふるさとを買い支える」という意識を少し持って買い物をしてほしいと思います。 自宅と農園を借りて野菜や果樹を作っています。はっさくやイチジク、キンカン、柚子などはジャムを作って食べています。 作り方などもっと知りたいと思うので、啓発活動や野菜づくりの講習会など開いてほしいです。 空地とかで野菜の作れる場所とか、遊ばすのではなく積極的に提供すればいいと思う 幼保、小中学校でもの稲作とかの体験をもっと積極的に取り組めばいいと思う イベントなどで地元野菜のお菓子の試食、農業の体験などをして若い人に理解してもらいたい 身近な家族に農地を所持しているものがおらず、自身の家の庭も狭いので家庭菜園にも取り組みないため、子供が参加できる農業とふれあう企画・イベントを積極的に開催していただきたいです。以前は、桃の収穫体験に参加させていただき、とてもよい経験となりました。 自分が子供の時分には、結構に学校での農業に関する行事があって、子供心に農業に関心が有った様と思うが、最近は少し少ない様に思いますが、その当たりに対策があれば。 あまり身近に農業をしている知人がいないので、もっと身近に感じられる存在にならないといけないと思います。 まずは保育園や小学校など、子どもたちが触れ合うところからが良いと思います。 学校での農業体験授業も単発体験ではなく、年間を通して当たり前に行い、収穫物を食すことを行っていけば、もっと身近なものになっていくはず。時間はかかるが、子どものうちからの教育が一番重要だと思う。 農業は国の根幹です。主食を輸入するようなことがあっては日本もおしまいです。多くの子どもたちに、野菜やお米を作って収穫して食べるという体験をしてほしいと思います。そして米作りにどれだけ手間がかかっているか実感してほしいと思いますし、それを助けるのが行政の役割だと思います。 収穫体験ではなく、作物を育てる体験を推進してほしいと思います。 子どもへの食育に繋がると思うので、倉敷の農業イベントなどがあると積極的に参加したいと思います。 農家の実情というか、大変さを理解していない方々が多いです。もちろん私を含めてですが。 もう少し、市民が日常的に農作物にふれあう機会、目にする機会と増やすべきです。 大きなイベントには興味がある人しか参加しません。逆に興味の無い人への認知度を深める事をするべきだと思います。 そして幼少期より、農業に対する教育をもっとしっかりするべきです。素直なうちに、そういう教育や知識を深めることによって、自然とその家族にも広がるでしょう。 そういう案も公募したらいいと思います。 イベントなどで農業施策を知ってもらう。 そのイベントを事前に多くの人に知らせる。 小学生中学生の農業体験。
9	市民農園 市民農園を利用したかったが近くにない

団地住まいの為、市民農園を利用したいと思うが、作業経験、知識がないため、アドバイスしていただける機会があればと思う。

市民農園を利用したいが用地が少なくあまり無いように思う。

自分の住む地域に市民農園をもっと増やしてほしい。
今ある場所は遠すぎて気軽に行きにくい。

10 倉敷市の農業施策全体への意見・要望

農業は気象に大きく影響されます。例えば、遅霜で霜害が発生しますが、霜注意報の度に霜対策をしていては費用負担が大き過ぎます。これは圃場ごとに霜害の危険度を計算できれば解決する問題で、データさえ取れば計算式は作れます。

また、温暖化によって気象条件は大きく変化しつつありますが、それに対応できるだけの準備はできているのでしょうか。これは災害と同じで、状況が悪くなってからでは手遅れになる問題だと思います。これらの問題については、気象データサイエンスなどの科学も用いることで対策を検討できると思います。市役所にも詳しい人はいると思いますが、長く組織の中にいるとどうしても考え方が固まってしまう。学者や気象データアナリスト、農業気象アドバイザーといった、市役所の外の専門家の意見を聞く場を設けてはどうでしょうか。

倉敷市の取り組み自体で農業への関心度は低い。事実、倉敷商工会議所の会員でも“農業”にちなんだ情報を得ることが難しい。その分知識・情報にも乏しく、先入観優先の取り組みが多いので、水島など工業製品の製造など他業種と比べて経済効率の点で劣る事を良く分かっているんだと思う。

表立ってそれを口にするのは無いが、進め具合や力の入れ方などを見ていればそれなりに肌で感じられる。他の農業地区と比べて何処がどう違うのか、地域のメリット性や可能性、デメリットなどが細かな面と言えるのか、専門家と名乗る方々でも教科書的な上っ面は語れても怪しさが有る。大学などの知識層と現場感を持った農業に従事する方々が戦略的に同じベクトルで動かないので、意識交流のやり方を考えて戦略的取り組みで結果（売市場の拡大）に繋がる仕組みが欲しい。

各地農業で成功事例を持つところと交流を深め、グローバルなコンサルティング出来る人物の存在も欲しいと思う。

価値の高い生産品を見極め、その市場性と、拡大可能性を短期中期で分析する。そこに存在する困難な壁をいかに払拭していくかの具体策は法的なものを含め、個人だけでは苦しいと思う。

短期間の農業パートがあれば、やってみたい。

市による水質保全及び規模拡大（きれいな水でないとおいしい作物は作れない。規模拡大で無農薬での米づくりをしないと、価格が安定しない。小規模農家の保護ではだめである、各々農家が農機具を購入してはもうからない。機械メーカーだけが儲かる。）

倉敷市の農業施策を具体的に知りません。

農業施策として市が取り組むのであれば、耕作前後の野焼きもしなくて良いように取り組んでほしい。他県では全面禁止のところも多くあると聞いています。

現状は農家は条件付きで野焼きが許されているが、実際は無条件（周囲への配慮、消防への事前通報などを行っていない）で野焼きされており、そのような農家が作る農作物を積極的に買おう食べようとは思わない。

そんなことに税金を使わないでほしい。

岡山市の山火事を忘れたかのように、先日でも威勢よく煙があちらこちらから上がっていた。

イベントなどでの啓発はとても効果があると思います。

若者の農業のための誘致や、技術の伝承、実際に出来たものを流通するルート、全て最初はどこかの組織がお膳立てしないと定着してくれないとも思いますので、そのあたり倉敷市のアイディアで、担い手を増やして、倉敷ならではの特色のある農業を推進していただきたいと思います。

農業＝稲作のイメージが強く、花卉栽培、野菜、果樹栽培がすぐイメージ出来なかった。倉敷をイメージさせるスイートピー、マスカット、連島ゴボウ等、折々にメディアに取り上げてもらい、大変な作業の中でも喜びがあること、作業体験（大人を含む）等が広がって興味を持つ人が増えると良い。ふなおワイナリーの様な通年の作業手伝いが他の栽培でも広がると良いと思う。子ども対象の農業クイズ（環境保全、文化継承等を含む）をイベント会場でするのはいかが？ 農業従事者には儲かる経営（農地区画整理、整備を含む）を、農業に興味のある人には体験、就農補佐の体制があると良いのでは？「先祖代々の土地を守る」個々の思いから皆んなで協同して作るに変えたらもっと気が楽になりませんか？ 農業をした事ない人が言うのはよくないかもですが。

倉敷市では農地に対し、宅地並み課税がされていると聞いたことがあります。
農業振興のため、倉敷市として改善できることがあれば積極的に実施してください。
倉敷市内で生産されるコメ、野菜を食べ続けたいです。
農薬等でハチなどの数が減少し、将来野菜が食べられなくなるとのニュースも耳にします。
化学物質が地球上にあふれかえり、遺伝子にも重大な影響を及ぼすと、「沈黙の春」という本から学びました。
放射能の危険性については今世界規模で核兵器廃絶など取り組まれています、化学物質については野放しのように思われます。学校教育でも一般市民向けの学習会などにも取り入れ、地球を守る、地球上の生物を守ることに真剣に取り組んでほしいと思います。
空気、水、そして食べ物、とても大切です。
これからの子どもたちのために国、地方自治体のさらなる取り組みを期待します。

肥料購入で補助があったが利用できなかった、親戚と共同購入しているが利用明細の当方分が不明とのことと受付できなかった

都市部から越してきた者にとっては、よくやっておられると思います。治水の問題と絡めて良いと思います

観光都市倉敷のイメージアップのためにも農業政策は重要。駅裏に広がっていた水田がなくなったことは非常に残念。倉敷は元々農と共に発展してきた町。今農地の集約化が話題になっているが、人の心を癒す観光都市としては、民家に隣接する小さな田畑の存在、それらとともに街を発展させようという取り組みは重要と考える。東京の真似をする必要はない。歴史を融合した街倉敷ならではの農業政策を推し進めてほしい。

農産物消費促進の施策は今の方向で良いと思いますが、農業従事者としては農業者が農業を行える（続けられる）ための施策を追加していただきたいと考えます。大規模でない限り農業だけでは赤字経営、農地保全をしようにも車が入れない道路や水路環境が悪い場所も多く、継続に限界を感じています。今話題になっている米作については、欧州のように国が生産者から高額で買取り、消費者に安く供給できる仕組みができないと続きません。倉敷市には農業継続の支援策として「農業機械を安く借りられる支援」や「農道の拡幅、水路の整備」を、農地保全の支援策として「草刈り等の作業応援支援」「農道の拡幅」などを望みます。

今回のアンケートを機に倉敷市のホームページから倉敷市の農業振興ビジョン、農業施策のページを見ました。
耕作放棄地の問題は身近にあり、倉敷市でも取り組んでいることを具体的に知ることができて良かった。
5－9の倉敷市の米粉製粉事業は少し前の広報くらしきに載っていたので興味はありました。

去年の夏からの米不足による価格の高騰や物価高で、日本の将来の食料事情をととても心配しています。できることなら地産地消で輸入などに頼ることなく、生活できることが一番望ましいと考えています。ロシアとウクライナの戦争や、これからアメリカが中東の紛争に参戦して状況が逼迫してくれば、エネルギー事情も日本にとっては不利な状況になり、それが私たちの生活にととても影響してくるのではないかと憂慮しています。生きていく上で衣食住はどれも大切なのですが、中でも食が最も必要かつ大切なことだと考えているので、倉敷市には積極的に農業施策を行ってほしいと思います。

知らないことが多いので市民への周知がたりないと思います

農業は暮らしに直結する大事なことだと思うので、倉敷市の積極的な農業施策を今後も期待しています。
米粉に関しては知らなかったのですが、ユニークな施策で好感を持ちました。

地産地消は積極的に行っている。理由は、スーパーに並ぶ野菜に比べて鮮度がよく長持ちするから、それと、長距離輸送に伴って発生するエネルギーや資材などによる環境への負荷を減らしたいから。農地については、担い手不足という国全体の問題でもあるので難しい。まずは家庭菜園をバックアップするなどの施策がよいと思う。米粉は、市販の米粉製品が高くて美味しくないので、小麦粉に対するアレルギーなどがある人や健康意識高い人しか興味ないと思う。天ぷら利用などでは1袋買っても消費できないので、パンやお菓子が美味しく作れたらと思うが、現状、小麦グルテンを入れないと作れない。いいレシピがあれば活用したい。

長期的には後継者不足や生産者の高齢化と言う書き方をしているが、現在そのような問題になっている。用水路の清掃も若くて40代しかも一割にも満たない。
農林水産課はそのような問題がないか状況把握を行ない、取り組んで欲しい。

倉敷市がどのような農業施策を行なっているのか、全く知らなかった。どのようなもので、どんなことをしているのか、具体的に見れるものがあればいいと思う。ポスター、チラシ、広報、イベントなど。市民も全く知らない状態だと、ネットで検索することもやらないと思う。

近年コメ不足が叫ばれ備蓄米や海外の米が出回るようになったきた。日本で米を買うために何時間も並ぶなど考えられないことだったのに。政府の減反政策が原因なのか米離れが原因なのか。高齢で農業をやめる人、農地を手放し宅地になる光景をよくめにする。市が農地や田畑を管理し農業に従事する人を育成し収入が得られる仕組みを作っていくとますます衰退すると思う。まずは農業に従事し農産物を作ってもらふ事。それらを利益がでる値段で買い取り、倉敷市のブランドとして市民や県外海外の人に認知してもらい、商品開発し売り出していく仕組みを市や行政が積極的に関わっていくと個人や零細企業では広く早く進まないと思う。農業をするにも農業機械の購入や維持、燃料高騰で負担が大きくやめる原因にもなるので、市がレンタルしたり補助するなりして安心して従事できる仕組み作りをして欲しい。個人負担で農業をする時代から行政が関わって多角的戦略のもと長期的なビジョンをもって事業として農業に取り組む次元に移行して欲しい。

中長期的な施策に加え、現在問題になっている米不足に対するわかりやすい情報提供を行う事で、安心感が醸成され農業施策への信頼感が生まれると思います。国の問題とせず、身近な倉敷市が取り組むことが、施策の浸透に繋がると考えます。

倉敷は観光と工業のイメージが強い。

農業も注目されるためにはそれらに並ぶようなブランド化が必要に思う。

市の食糧自給率100%を目指してもらいたい。農業に対する既存の価値観を取り払って、人の命を支える素晴らしい仕事だという認識を広げてほしい。農地をなくすことでどんな弊害が出てくるか、考えてほしい。誰もが農業に従事したいと思うような意識改革、税金対策をしてほしい。

申し訳ないが農業振興のために市が本気で取り組んでいる(十分な予算を配分している)とは思えない。毎年田んぼは休耕地や宅地になるばかり、市内に道の駅もなく、地産地消と言ってもどこで売っているのか知る人ぞ知るといったところ。スーパーで気がつけば買うが、蓮根やごぼうくらいしかほとんど目につかない。売り場も狭すぎて積極的に選ぶ理由がない。高く、種類も少なく、出来も良いとは限らない。しかし毎年農業まつりは本当に楽しみ。新鮮で美味しい地元産の野菜や米の需要はむしろ高まっていると思う。

11 農業全体に関わる意見・要望

米の生産はプロにお任せするしかない。減反政策を早く改め、農家が安心して継続的に米の生産が可能な仕組みづくりが必要で、そのためには物流、保管、流通も含めてベストな方法を選択するしかない。JAを中心にした今の仕組みは半世紀くらい古い。また野菜類の多くは家庭菜園で作ることが出来る。ものによってはプランターでも生産できる。それによって旬を感じることもできる。耕作放棄地を出来るだけ活用する方法を考えたい。なお、うちの菜園は昨年猪の被害が出た。一応は柵を作ったが根本的な解決にはならないので、鳥獣対策は必須。

「農漁業こそ基本産業」農漁業が衰退したら市民は生きていけない。という基本姿勢をまず確立すること。

「農は国の基なり。」と言います。

国政とも共同して持続可能な農業施策をお願いします。

職業として成り立つ方策をお願いします。

農産物の安全性やコスト高に対応する施策の推進

農業はその地域の文化である。文化を守り、誇りとする市民の意識が大切である。しかし、農業を発展させていくためにはあまりにも多くの課題がありすぎる。課題に対処するのは人であり、人づくりを積極的に行うべきである。農林水産の部門だけに任せきってはいけない。全部門が農業の抱える課題の一旦を担うべきである。市民参加型の農業協議会を設立して課題解決、発展に努めるべきであろう。気がなければ・・・氣・・・氣の中身は本来は米なのであるが、いつの間にか×になった。米を粗末のするから罰が当たった、のである。

区画整理で自宅周辺の農地はほぼなくなりました。自然がなくなっているようで、子供たちが生き物を探すような遊びをしている姿も見なくなりました。

中心部に住んでいると、どのあたりで農業振興されているのかわかりません。わざわざでかけないとそのような環境には出会えず寂しい限りですね。

農業公園、地元の商品を取り扱う店舗等の賑わいは凄いのがあります。時間帯によっては、駐車場が満車になる程の盛り上がりで熱気です。この状態は、ずいぶん前から続いていますので、「農業施策」は、やはり生産者と土地を守る事に重点を置いて頂きたいと思います。

減反ではなく、農業が普及する取り組みをしていかないと、将来的に困ると思う。

農地が宅地に使われています。30年前と風景が様変わりです。今、米高騰の時、農業従事者にもっと魅力的な農政が必要ですが、具体的に何かはよくわかりません。

農業施設という言葉が聞きなれない。具体的に何が農業施設かもわからない。

市の施策を十分に理解していませんが、従来同様のやり方で生産を続ける農家を含めた一律の援助は止めて、改善努力に見合った援助をすべきと思います。
財政が厳しいなかで、農業というだけで税金を注ぎ込むのは間違いだと思います。
農業以外は自己改革や身を切る改善努力で生き残っています。
改善努力に見合った部分にのみ税金を使うべきと考えます。

米農家と近隣住宅とトラブルになりやすく（害虫問題、川掃除などの負担）、いっそのことコンパクトシティのように農地と住宅地を全く分けたいのになと思うことがある。そこまでではなくても一方的ではなく相互交流ができればいいのになと思う

農業をする人を集約させ効率化を図るように促すべき。助成金（補助金）を出すのはやめてほしい。自助努力が働きの思うので。

耕作放棄地を少なくするため、もっと農業への参入を奨励すべき。余りにも農家、農協、地方議員、国会議員の閉鎖的な体質がこの国の農地、農業を衰退させている。

農地法を知らない人が多すぎます。現在は、大型農業でないといと経営が出来ないので、玉野のように農地を大型化して採算の合う農業にしないと困ると思います。倉敷市は、農協の力が弱いので、市がスーパーなどとタイアップして、直接コメから野菜まで販売できるようになると、市民が暮らしやすい物価になり生活しやすくなり、他の市町村からも来るのではないのでしょうか。農業は農協がだめにしています。私は、岡山市の農地保有者です。

レンタル農地の拡大

農地の税金面の待遇

時期的に使用していない農地を遊び場として開放し、親しみを持ってもらう。

大型農機具含むの低価格でのレンタル

行政として農地の買取りもしくはリース購入

近所に沢山あった田畑もどんどん住宅地にかわり、残念に思っています。以前田んぼが家の裏にあった際は夏でも暑さが違いました。

農業に詳しくはないですが、機械も高額だと聞きます。農業を支えられるような仕組みがあるとよいなと思います。

個人的に興味があるのは、水耕栽培です。

土を使わないため、土壌を好む害虫の影響を受けにくく、成長も早いので、初心者でも始めやすいのが魅力です。

従来の農業は、田畑を耕す労力に加え、天候や害虫、農薬の管理、高齢化など多くの課題を抱えており、後継者不足が深刻化しているのも納得できます。

その点、水耕栽培であれば、農業未経験者や高齢者でも取り組みやすく、天候に左右されにくいので収穫が安定し、一定の収入も見込めるのが利点です。

とはいえ、初期投資が必要になるため、補助金などを活用して始めやすい仕組みを整えば、より多くの人が参入しやすくなると感じます。

農業は生活の根幹です。個々の意識が大切だと思うので、できる範囲で対応していきたい。

都市部の農業をどの方向に持って行くかは、多くの都市の重要課題です。多くは野菜中心の都市近郊農業となります。米については残念ながら農業従事者の継続的減少・農家の高齢化・他産業と比較し非常に悪いコストパフォーマンス等により、広い面積を有する専業農家か農業法人に特化していくと考えられます。海外からの米輸入についても、未来永劫現在の施策を維持し続けることは不可能でしょう。個人の米消費が落ちてきたことは、時代の趨勢・人々のライフスタイルの変化に伴う必然だと考えます。米粉の活用による米の消費拡大も恐らく焼け石に水で、本質的な解決策にはなりません。時計の針を巻き戻すことはできません。将来の展望が無い中で補助金漬けで小規模農家を守ることは、財政を悪化させるだけで小規模農家の延命処置に過ぎず、農業を守ることになりません。産業として成り立つ都市部の農業の確立を目指し、将来の展望が無いものは排除する決断も必要です。自然環境や水源、景観の保護の名目で、将来の展望が描けないものに執着・延命するのはマネージメントとしては失格です。企業ならその会社は倒産します。

人や環境に優しい農薬を使わない自然農法を広めていただきたいと願います。

米や農業用資材の値上げが著しいので、少しで良いから補助してほしいです。

出荷額と、肥料などの経費や農地の固定資産税を差し引くと、利益ほとんどないです。将来的に子どもに、引き継ぐのやめようかと思っています。

家庭菜園をされている方の中には食べきれず捨ててしまっている方も多々いらっしゃいます。

家庭菜園は、季節物が多く出来だすとずっと同じ物を食べないといけなくなり、食べきれず腐らせてしまいます、周りも同じ様な物を作っている事も多く配れない事も多い。

その野菜を給食センターなどで使用出来たり、公民館などで格安で売ったり出来たら良いのになと思った事がある。

それと、農地が足りなければ纏まった空き地を市が固定資産税代ぐらいで借り上げ、野菜・お米を作っても良いのでは？

使わない農地を就農したい人に貸し出す。一人では出来なくても複数でやればいい。
農業後継者が居なくて放置されてるなら、就農したい人と一緒にやる・必要時にアドバイスする・収穫時に賃借料で出来た農作物を渡す・固定資産税の軽減など、農業で暮らしていける様にする。
農業従事者が自分達が持つてゐる知識を発信・改良品種、農機具のレンタル、畜産・家庭や給食の残飯等と連携し肥料のSDGsに取り組めばいいと思う。
農業をしたくても、土地がない・知識がない・・・それらをカバー出来れば、農業は廃れないと思う。
最近、TVで、苗を植えるのではなく、特別にコーティングした種を植え、肥料はドローンで生育状態を識別し撒く等を見ました。その様な農業手法も広がればいいと思います。
誰もが農業をやりたい気持ちがあると思う。ただ、大変というイメージが有るから、それを払拭出来たらいい。
令和の米騒動にならない為にも、農家にばかり頼るのではなく、繁忙期に手伝いに行くイベント等を開催すればいいと思う。
皆が手を携えて生きていける社会が理想ですね。
農業労働者に、生活保護者も視野に入れてはどうでしょうか？

今の農業は農政、流通、生産者全般にわたってさまざまな問題、課題があると思うが、食料安全保障や国民の健康のために、国や自治体が積極的に保全、改善に取り組む事をお願いしたいです。

減反政策など行われているようだが、やめるべき。農家さんが食べて行けるように支援すべき。そうなるならば、お米の値段は現状のままで良い。外国に輸出しているのもおかしいと思う。古古米や古古古米などを放出して国民に食べさせるのはいかがなものか。マスクが枯渇した時と同じ事をしている。国民は安く買えたと思ふのではなく、この状況をおかしいと思うべき。

倉敷に引っ越してきて、大型の分譲地で子育てをして、7年になるが、周りの景色は一変した。囲まれていた田畑が見事になくなり、家ばかりが建った。カエルの声も静かになった。
畑や米を作るより、土地を売ったほうがいいという判断なんだろうと思う。苦勞して農業を続けるメリットがないのだと思う。農業をする人びとを大切にすればよかっただけ。

農家さんのために何かしたいのですが、取り組みがよくわかりません。スーパーで購入しても結局仲介業者のマージンが高いという話も聞くので、何が一番農家さんの支援になるのかも含めて知れる機会があれば嬉しいです。

他産業に比べて個人、法人を問わず新規の参入が困難な業界だと思う。
家業として代々農業を生業としている農家が農業を続けられるように考えられえた政策なんだろうなという感触。
米以外もある程度地域での計画生産的な視点があるのだろうか、知らないことが多い。
食料の自給率を上げ、地産地消と言われるように地域の食糧を近隣地で生産が出来ると言うのは地域のインフラ整備と考えて生産量を上げる方法は何かと考えることは大切だと思う。
政策で保護、税金の投入があったとしても人が生きていくために必要な産業なのである程度は容認できる。
自分が生きていくためには消費者として食料を購入しなければならない立場なので、何も出来ることはないのだが、一般市民からの見え方としては、農林水産省からの再就職者が5代以上続いている独立行政法人、特殊法人、公益法人などのリストを見てしまうと、身内同士で慣れ合って税金を回してるのかなと邪推をしてしまいます。国レベルが宜しくやっているのを見ながら、農家の方が暑い中、寒い中田畑で働いている姿を見るにつけ、ニュースでよく見る平均年収以上であってほしいと願うばかりである。

何十年も前に張り巡らされた用水路を今の時代の状況に合ったものに整備・改善し不要になった箇所は側溝などにかえて欲しいです。近所の狭い道沿いの用水路に毎年のように人や車が落ちます。危険なので蓋をして欲しいとお願いしても用水路に蓋はできないと言われます。地産地消には大いに賛成ですが身近でこのようなことがあるので正直田んぼや畑がなければ…と思います。

宅地化が進んでおり、農地を集約化していくことが大切と考える。

近年では農業をする人が減ったせいか田んぼや畑も減ってきている気がします。
死んだ土地等をそのままにせず、積極的に開拓、ここでは農業をするように推進して貸出を行なってみてはどうでしょうか。

完全自営業の農家には援農があるが、兼業農家にも援助を希望します。
果樹栽培も温暖化の影響で 開花や収穫がずれ込んだり、高温で収穫量が減ったり作業が追加されたりして維持管理が大変です。

専業農家1人当たり1,000万円の年収が得られるよう、大規模化（法人化）と合理化を進めるべきだと思います。
そのためには、経営が困難な小規模農家の農地を自治体や国が買い上げて、大規模農業法人に賃貸したり、売却したりすることが望ましい。
国内での自給に留まらず、積極的に輸出を行って、しっかり外貨を稼ぐべき。